

日本教育公務員弘済会広島支部表彰について

(本校 三上 恭彦 教諭)

12月10日(土)の中国新聞紙面に、本校の三上恭彦教諭が日本教育公務員弘済会広島支部から表彰されたことが掲載されました。部活動で古くなった廃材を使って原子模型を作り授業に活用しています。生徒からも好評で、実際に目の前の模型を使って考えると理解しやすいようです。三上教諭は、「これからも身近な廃材を使って生徒のためになる教材を制作していきたい」と意気込んでいます。

平成28年12月10日付け中国新聞より抜粋
(中国新聞社の許諾を得ています)



部活の廃ボールで原子模型

広島市安佐南区の祇園北高で、部活動で使わなくなったボールで原子の模型を作り、授業で活用している。三上恭彦教諭(51)が実践を論文にまとめ、日本教育公務員弘済会広島支部の表彰を受けた。

オレンジ色のピンポン球はヘリウム、白は水素に見立てた。黒く塗ったテニスボールは炭素、緑色のバレーボールはヨウ素とするなど、原子の大きさに見合ったボールを選び、同じ性質を持つ原子は色をそろえた。ボールにはねや磁石を取り付け、原子同士を結

び付ける仕掛けを設けた。原子の組み合わせで水やメタン、エタノールなど高校の化学で習うほとんどの分子を模型で表現できるといふ。

三上教諭によると、市販の模型は高価なため、授業で全ての生徒に行き届かない状態。今春同校に転勤し、ボールが処分されるのを見掛けて活用を思い付いた。

2年坪倉哲也さん(17)は「模型を組み立てると化学式が頭に入ってくる」と喜ぶ。三上教諭は「生徒たちが使っていたボールなので身近に感じる効果もある。面白がって興味を持ってくれるのが一番の成果」と話している。(新谷枝里子)

祇園北高 授業で活用 化学身近に